

## 日本産スズメバチ科 (Vespidae) の属, 種の検索表

寺山 守

スズメバチ, アシナガバチ類はメスにおいて女王と働きバチとの分化が見られ, 巣を作り, 集団で生活する社会性昆虫である. 一部の種では, 他種の巣内で生活する社会寄生を行う. 幼虫は肉食性で, 成虫は昆虫類を狩り, 幼虫に餌として与える. ただし, 成虫は雑食性で, 動物食の他, 花蜜に集まるとともに, 種によっては樹液にも集まる. 極地や高山等の特殊環境を除き, ほぼ世界中に分布するが, 熱帯・亜熱帯に特に種数が多い. 家屋周辺にも営巣が見られ, 身近かな昆虫の一つである.

スズメバチ科の範囲は, 研究者によって異なるが, ここでは, ドロバチ類とハナドロバチ類を除いた真社会性を示すハラボソバチ類, アシナガバチ類, スズメバチ類をスズメバチ科とみなした.

スズメバチ亜科は, 今日 4 属に約 70 種が記載されている. 多くの亜属が記載されている種が多い. しかし, 色彩等により地域個体群 (亜種) を識別することは困難の種が多いにも拘わらず, その一方で, 多くの亜種名が記載されており, 現実的な亜種の認定は不可能との判断で亜種を認めない方式をここでは採用した. 日本では, スズメバチ属 *Vespa* に 7 種, クロスズメバチ属 *Vespula* に 6 種, ホオナガスズメバチ属 *Dolicovespula* に 4 種の合計 3 属 17 種が知られている.

アシナガバチ亜科は, アシナガバチ族, チビアシナガバチ族, ホソアシナガバチ族の 3 族に区分され, 26 属に約 1,000 種が記録されている. 日本からはアシナガバチ属 *Polistes* に 7 種が, チビアシナガバチ属 *Ropalidia* に 2 種が, ホソアシナガバチ属 *Parapolybia* に 2 種が生息し, 合計 3 属 11 種が知られている.

本科のハチは, 種数も少なく, かつ大形で, 基本的に顕著な色彩をもつものが多いことから, 種認定はそれほど難しくないのであろう. そのため, ハチの中では珍しく大体の種が写真による判定が可能なグループである. ただし, 琉球列島のアシナガバチ類は注意を要する. 地域ごとにミューラー型擬態を構成し, 類似の色彩を持つ種が見られる.

本検索表中の分布は国内分布に限定したもので, 下記の記号で生息地域を示した.  
北: 北海道, 本: 本州, 四: 四国, 九: 九州, 奥: 奥尻島. 佐: 佐渡島, 対: 対馬, 種: 種子島, 屋: 屋久島, 琉: 琉球列島, 奄: 奄美諸島, 宮: 宮古諸島, 八, 八重山諸島, 千: 千島列島, 伊: 伊豆諸島, 小: 小笠原群島, 火: 火山列島

## 亜科及び属の検索表

- 1a 腹部第1節は背面から見て横長で、前縁は直線状。  
1b 後翅に臀垂がない。  
1c 大形で通常体長 20mm 以上。  
..... スズメバチ亜科 *Vespinae*.... 2
- 1aa 腹部第1節は背面から見て前方が狭まる、あるいは柄状。  
1bb 後翅に臀垂がない。  
1cc 中形から小形で、通常は体長 20mm 以下。  
..... アシナガバチ亜科 *Polistinae*..... 4
- 2a 頭盾に斑紋を欠く。  
2b 複眼後方は広く、背面から見て後単眼と頭部後縁の距離は後単眼・複眼間の距離より長い。  
..... スズメバチ属 *Vespa*
- 2aa 頭盾に暗色斑紋をもつ。  
2bb 複眼後方は狭く、背面から見て後単眼と頭部後縁の距離は後単眼・複眼間の距離より短い。  
..... 3
- 3a 頬は短く複眼下端は大アゴにほぼ接する。  
..... クロスズメバチ属 *Vespula*
- 3aa 頬は長く複眼下端は大アゴに達しない。  
..... ホオナガスズメバチ属 *Dolichovespula*
- 4a 腹部第1節はつり鐘型。  
..... アシナガバチ属 *Polistes*
- 4aa 腹部第1節は細長い柄状。  
..... 5
- 5a 腹部第2節は背板と腹板が融合する  
..... チビアシナガバチ属 *Ropalidia*
- 5aa 腹部第2節の背板と腹板は分離する  
..... ホソアシナガバチ属 *Parapolybia*

## スズメバチ亜科 Vespidae

### スズメバチ属 *Vespa* の種の検索 (働きバチ, 女王に適用)

1a 腹部はほぼ全体が黒褐色.

..... チャイロスズメバチ *Vespa dybowskii* Andre, 1884 北, 本

1aa 腹部第 1 節と第 2 節が橙黄色で, 第 3 節以降は黒色.

..... ツマグロスズメバチ *Vespa affinis* (Linnaeus, 1764) 沖, 八

1aaa 腹部第 1, 第 2 節に黒あるいは黒褐色部があり, 第 3 節以降に黄斑がある.

..... 2

2a 腹部第 3-5 背板の黄帯前縁には 1 対ずつの波状の凹みがある.

..... モンスズメバチ *Vespa crabro* Linnaeus, 1758 北, 本, 四, 九

2aa 腹部第 3-5 背板の黄帯前縁は基本的に直線状.

..... 3

3a 腹部第 5 節, 第 6 節は黒から黒褐色で黄帯がない (対馬の個体を除く).

3b 頭盾前縁の 1 対の突起は尖り, 前縁中央部は突出しない.

..... ヒメスズメバチ *Vespa ducalis* Smith, 1852 本, 四, 九, 対, 琉

3aa 腹部第 5 節, 第 6 節は黄色か黄帯をもつ.

3bb 頭盾前縁の 1 対の突起は丸味を帯びたこぶ状で, 前縁中央部に小突起がある.

... コガタスズメバチ *Vespa analis* Fabricus, 1775 北, 本, 四, 九, 対,  
屋, 琉

3aaa 腹部第 5 節, 第 6 節は黄色か黄帯をもつ.

3bbb 頭盾前縁の 1 対の突起は丸味を帯びたこぶ状で, 前縁中央部は突出しない.

..... 4

4a 頭頂の複眼間に黒紋はない.

4b 頭部の頬はよく発達する.

4c 脚の脛節は黒色から黒褐色.

4d スズメバチ類中最大種で, 体長は通常 30mm を越す(女王では時に 45mm に達する).

... オオスズメバチ *Vespa mandarinia* Smith, 1852 北, 本, 四, 九, 対, 屋

4aa 頭頂の複眼のある部位に黒色から黒褐色の明瞭な大きな斑がある.

4bb 頭部の頬は通常の大さき.

4cc 脚の脛節は黄色から黄褐色.

4dd 体長は通常 30mm 以下.

... キイロスズメバチ *Vespa simillima* Smith, 1868 北, 本, 四, 九, 千,  
対, 屋

クロスズメバチ属 *Vespula* の種の検索表 (働き蜂, 女王に適用; オスのみが記載されて  
いるシナノヤドリクロスズメバチを除く)

- 1a 斑紋は黄色から橙黄色.  
..... 2
- 1aa 斑紋は象牙色から白色.  
..... 3
- 2a 後胸背板に黄斑を欠く.  
2b 小楯板の黄斑は円形に近い.  
2c 頭楯は全体黄色で, 1-3 個の小黒点をもつ (社会寄生性で働きバチを欠く).  
..... ヤドリスズメバチ *Vespula austriaca* (Panzer, 1799) 北, 本
- 2aa 後胸背板に黄斑がある.  
2bb 小楯板の黄斑は横に長い.  
2cc 頭楯にはイカリ形の斑紋をもつ.  
..... キオビクロスズメバチ *Vespula vulgaris* (Linnaeus, 1758) 北, 本
- 3a 腹部第 1 背板前縁に中央でとぎれる白帯がある.  
3b 複眼内側の白斑は下半分にだけみられ, しかも細い.  
.. ツヤクロスズメバチ *Vespula rufa* (Linnaeus, 1758) 北, 本, 四, 千
- 3aa 腹部第 1 背板前縁に白帯はない (稀に見られる個体がある).  
3bb 複眼内側の白斑は上方にも伸びる.  
..... 4
- 4a 複眼内側の白斑は幅広く, その内縁は膨らむか直線的.  
.... クロスズメバチ *Vespula flaviceps* Smith, 1858 北, 本, 四, 九, 対,  
種, 屋
- 4aa 複眼内側の白斑は三日月形にえぐられ, 幅は狭い.  
.... シダクロスズメバチ *Vespula shidai* Ishikawa, Sk. Yamane & Wagner,  
1980 北, 本, 四, 九, 屋, 奄

ホオナガスズメバチ属 *Dolichovespula* の種の検索表 (働き蜂, 女王に適用)

- 1a 斑紋は黄色から橙黄色.
- 1b 頭盾の黒斑は棒状で頭盾前縁に達しない (やや大形の種で, 女王はスズメバチ属の種と誤認されやすい).
  - ... キオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula media* (Retzius, 1783) 北, 本
- 1aa 斑紋は象牙色から白色.
- 1bb 頭盾の黒斑は中央部でふくらみ, 通常頭盾前縁に達する.
  - ..... 2
- 2a 頭盾の黒斑は頭盾上縁に達しない(社会寄生性で働きバチを欠く).
  - .... ヤドリホオナガスズメバチ *Dolichovespula adulterina* (Buysson, 1905) 北, 本
- 2aa 頭盾の黒斑は頭盾上縁に達する.
  - ..... 3
- 3a 頭盾の黒斑は下方で明確にくびれない.
- 3b 後胸背板はしばしば白斑を欠く.
  - ... シロオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula pacifica* (Birula, 1930) 北, 本, 四, 千
- 3aa 頭盾の黒斑は下方でくびれ, 柄状を示す.
- 3bb 後胸背の白斑は通常消失しない.
  - ... ニッポンホオナガスズメバチ *Dolichovespula saxonica* (Fabricius, 1793) 北, 本

アシナガバチ亜科 Polistinae

アシナガバチ属 *Polistes* の種の検索表 (働きバチ, 女王に適用)

- 1a 腹部第 2 節に黄色円紋を 1 対持つ
  - ..... 2
- 1aa 腹部第 2 節に 1 対の明瞭な黄色円紋を持たない
  - ..... 3

- 2a 前胸背板後縁の黄緑部は普通前方でとぎれる.
- 2b 大アゴは全体が黒色 (まれに黄斑をもつ).  
 .... トガリフタモンアシナガバチ *Polistes riparius* Yamane & Yamane, 1987  
 北, 本 (東北地方)
- 2aa 前胸背板後縁の黄緑部はとぎれず, 前縁の黄線につながる.
- 2bb 大アゴは全体黄色か黄斑をもつ.  
 ..... フタモンアシナガバチ *Polistes chinensis* (Fabricius, 1793)  
 北, 本, 四, 九, 奥, 佐, 対, 屋
- 3a 大形種: 体長 16-25mm.
- 3b 中胸側面は隆起線と溝によって4つに区画される.
- 3c 頭盾は横幅が縦より長い.  
 ..... 4
- 3aa 小形から中形の種; 体長 10-20mm 程度.
- 3bb 中胸側面は前側板と後側板の2つに区画される.
- 3cc 頭盾は縦横同長か, 縦が少し長い.  
 ..... 5
- 4a 後頭隆起線は完全で大アゴ基部に達する.
- 4b 触角の柄節, 梗節, 鞭節の数節上面は黒色 (八重山諸島の亜種では柄節上面が黄褐色).
- .... キアシナガバチ *Polistes rothneyi* Cameron, 1900 北, 本, 四, 九,  
 奥, 佐, 対, 琉
- 4aa 後頭隆起線は大アゴ基部に達しない.
- 4cc 触角上面はふつう黄褐色 (まれに柄節が暗色).  
 ..... セグロアシナガバチ *Polistes jokahamae* Radoszkowski, 1887  
 本, 四, 九, 対, 屋, 琉
- 5a 中胸背板に1対か2対の黄色から赤褐色の縦斑がある.
- 5b 触角鞭節の大部分が黄褐色.  
 ..... 6
- 5aa 中胸背板は常に全体黒色.
- 5bb 触角鞭節の大部分は黒色から黒褐色  
 ..... 7
- 6a 腹部第2背板の基部の黒色部は狭く, 背板の基部から1/3以内にある (沖縄島以南の個体群では特に狭く, 太い黒帯となる)

6b 奄美諸島以南に分布 .

.... タイワンアシナガバチ *Polistes formosanus* Sonan, 1927 奄, 沖,  
宮, 八, 南大東島

6aa 腹部第 2 背板の基部から 1/2 までは, 通常広く黒色部となる.

6bb 屋久島以北に分布.

.... ヤマトアシナガバチ *Polistes japonicus* Saussure, 1858 本, 四,  
九, 対, 屋

7a 腹部第 1, 3, 4 背板の後縁に鮮黄色の横帯または 2 紋を持つ.

7b 触角上面はほぼ全体黒色.

... コアシナガバチ *Polistes snelleni* Saussure, 1862 北, 本, 四, 九,  
対

7aa 腹部は第 1 背板後縁に黄帯を持つことがあるが, 他の背板にはない.

7bb 触角は最初の 2-3 節上面が赤褐色.

... キボシアシナガバチ *Polistes nipponensis* Pérez, 1905 北, 本, 四,  
九, 対, 屋

#### チビアシナガバチ属 *Ropalidia* の種の検索表 (働き蜂, 女王に適用)

1a 腹部第 2 背板に 1 対の黄色円紋をもつ.

... オキナワチビアシナガバチ *Ropalidia fasciata* (Fabricius, 1804) 琉

1aa 腹部第 2 背板に 1 対の黄紋をはない.

..... ナンヨウチビアシナガバチ *Ropalidia marginata* (Lepelletier, 1836)  
火 (硫黄島)

#### ホソアシナガバチ属 *Parapolybia* の種の検索表 (働きバチ, 女王に適用)

1a 頭盾は黄色で斑紋はない.

1b 体に淡褐色の模様をもつ.

.... ムモンホソアシナガバチ *Parapolybia indica* (Saussure, 1854) 本,  
四, 九, 対. 琉

1aa 頭盾に黒色の縦紋をもつ.

1bb 体に，地色とのコントラストが強い暗褐色の模様をもつ．

..... ヒメホソアシナガバチ *Parapolybia varia* (Fabricius, 1787) 本，  
四，九，対

## 各種の概説

### Subfamily Vespinae スズメバチ亜科

ヤドリホオナガスズメバチ *Dolichovespula adulterina* (Buysson, 1905)

女王の体長 16-18mm，オスでは 14-16mm．社会寄生種で働きバチを欠く．女王の頭盾前縁の 2 つの突起は鋭く尖る．頭盾の黒斑は頭盾後縁に達しない．

山地に生息し，ニッポンホオナガスズメバチやシロオビホオナガスズメバチの巣を 7 月頃に乗っ取る．ただし，乗っ取り後も寄女王を殺さず，寄主女王の産卵を容認する．

分布：北海道，本州；ユーラシア．

キオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula media* (Retzius, 1783)

働きバチの体長 13-16mm，女王の体長 20-25mm．斑紋は黄色から橙黄色．頭盾の黒斑は棒状で，前縁に達しない．複眼内側の黄斑は複眼凹部をほぼ覆う．女王は大きく，また斑紋がスズメバチ属に似るので同定に注意が必要である．

本州産の個体群は北海道産のものよりも黄斑が豊富である．

木の枝に営巣し，家屋の軒下にも見られる．巣の総育房総数は 300 から 2,000 ほどになる．北海道では平地から低山地に普通に見られ，本州では，標高 500-1,000m 以上の山地に生息する．

分布：北海道，本州；ユーラシア．

シロオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula pacifica* (Birula, 1930)

働きバチの体長 11-13mm，女王では 15-17mm．頭盾の黒斑は後縁に達する．また，下方で明確なくびれを持たない．後胸背板はしばしば白斑を欠く．

成虫数は最盛期で 50-150 頭，新女王とオスは 9 月に羽化する．北海道では平地から低山地に見られ，本州中部や四国では山岳地域に見られる．

分布：北海道，本州，四国，千島；ユーラシア，北米，ミャンマー，チベット．



ニッポンホオナガスズメバチ *Dolichovespula saxonica* (Fabricius, 1793)

働きバチの体長 12-14mm, 女王では 16-18mm. 頭盾の黒斑は後縁に達し, 下方で柄状にくびれる. 後胸背板には白斑をもつ (まれに消失する個体がある). オスでは, シロオビホオナガスズメバチ *D. pacifica* との外形からの区分は困難で, 交尾器によって判定するのが無難である.

山地に見られ, 働きバチ数 50-150 頭ほど, 総育房数 300-2,400 ほどの巣を造る.

分布: 北海道, 本州; ユーラシア.

ツマグロスズメバチ *Vespa affinis* (Linnaeus, 1764)

働きバチの体長 18-25mm, 女王 25-28mm. 体は赤褐色で, 腹部第 1, 第 2 節が橙黄色, 第 3 節以降は黒色.

日本では琉球列島の宮古島以南の先島諸島に生息し, 地表付近の藪に営巣することが多い. 働きバチ数は 9-10 月の最盛期で 100-800 頭ほどになる. 女王の造る創成巣は, コガタスズメバチと同様に, とっくりを逆さにした形態のものとなる. 巣は働きバチは増えると, やがて球状となる.

分布: 琉球列島 (宮古島以南); 台湾, 中国, ミャンマー, インド, スリランカ.

コガタスズメバチ *Vespa analis* Fabricius, 1775

働きバチの体長 21-27mm. 女王の体長 25-29mm. 頭盾前縁は 1 対の突起の他に, 中央部に歯状の突起をもつ. 本属の中で, 頭盾前縁に 3 本の歯状突起を持つものは, 本種のみである.

木の枝, 軒下, 崖等に球型の巣を造る. 巣内の働きバチ数は最盛期で 50-100 頭程度. 女王は, とっくりを逆さにしたような特徴のある形の創成巣を造る.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 琉球列島; 朝鮮, 台湾, 中国, 東南アジア, インド, シベリア.

モンズズメバチ *Vespa crabro* Linnaeus, 1758

働きバチの体長 19-28mm, 女王 25-28mm. 腹部第 3-5 背板に 1 対の黒色斑紋があり, これによって, 各節の黄帯前縁が波状をえがく. 前胸背板の斑紋は赤褐色, 小盾板に斑紋を欠く. 脚脛節は赤褐色.

餌としてセミを好んで捕らえるとともに, 各種のアシナガバチの巣を襲って, 幼虫やサナギを餌とする. 夕暮れ時から日没後にかけても巣外の活動が見られる.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州; ユーラシア, 北米 (人為的移入).

チャイロスズメバチ *Vespa dybowskii* Andre, 1884

働きバチの体長 17-25mm, 女王は 27-32mm. 頭部と胸部は赤褐色, 腹部は全体が黒褐色から黒色で, 他種との区別は容易.

一時的社会寄生を行い, 女王はキイロスズメバチやモンスズメバチの巣に侵入して, 女王を殺し, 巣を乗っ取る. 巣は総育房数 600-2,500 房程度の大きさとなる.

分布: 北海道, 本州; 朝鮮, 台湾, 中国, シベリア, ウスリー, タイ, ミャンマー, ネパール.

オオスズメバチ *Vespa mandarinia* Smith, 1852

働きバチの体長 27-40mm, 女王で 40-45mm, オスで 30-39mm. 本科で世界最大の種で, 働きバチは普通, 体長 30mm を越す. 腹部には顕著な黄色帯を持ち, 末端節は橙黄色となる.

平地から山地の林の地中に鐘形の巣を作る. 巣あたりの働きバチ数は最大で 500 頭程度. コガネムシ, カミキリムシ, カマキリ等の大型昆虫を狩り, 巣の個体数が大きくなる秋口には, ミツバチや他のスズメバチの巣を襲う. 北海道では少ない.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島; 朝鮮, 台湾, 中国, 東南アジア, インド, ヒマラヤ.

キイロスズメバチ *Vespa simillima* Smith, 1868

働きバチの体長 17-26mm. 女王の体長 24-26mm. 黄色の毛が密生していることから, 体の黄色味が強い種である. 前胸背板の斑紋は黄色から橙黄色. しばしば小盾板に黄斑がある. 脚脛節は黄色から黄褐色. 北海道の個体群は, 体毛がより多く, ケブカスズメバチあるいはエゾキイロスズメバチと呼ばれていた.

木の枝, 軒下, 土中等に長円形の巣を造る. 日本産の本属の中で, 最も営巣機関が長く, かつ営巣規模も大きく, 巣の総育房数は 4,000-14,000 房に達する. 都市部や住宅地でも巣が見られ, よく見かける. 攻撃性は高い.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 千島, 対馬, 屋久島; 朝鮮, 東シベリア, サハラシ.

ヒメスズメバチ *Vespa ducalis* Smith, 1852

働きバチの体長 25-33mm, 女王で 32-35mm. 腹部末端の 2 節は全体が黒色. ただし, 対馬の個体群では末端の 2 節に大きな黄色斑を持つか, あるいは全体がほぼ黄色となる.

以前、本種に適用されていた学名 *V. tropica* は誤りで、*tropica* は本種とは別の種であることが判明している。

巣は樹洞や土中等の閉鎖空間に造られる。営巣期間が短く、働きバチの数は10-40等程度で少なく、巣の総育房数も100-4500房程度である。アシナガバチの巣を襲い、幼虫や蛹を持ち帰り、自分たちの幼虫の餌としている。

分布：本州，四国，九州，対馬，琉球列島；朝鮮，台湾，中国。

ヤドリズメバチ *Vespula austriaca* (Panzer, 1799)

女王の体長15-20mm，オスの体長12-14mm。女王の頭盾は全体が黄色。後胸背板に黄斑を欠く。

社会寄生種で、働きバチを欠く。ツヤクロスズメバチの巣に6月から7月にかけて女王が入り、相手の女王を殺して巣を乗っ取る。本州中部では標高800mから2,200m地点で得られている。

分布：北海道，本州；ユーラシア。

クロスズメバチ *Vespula flaviceps* Smith, 1858

働きバチの体長10-13mm，女王で14-16mm。複眼内側の白斑は上方にも延び、幅広く、その内縁は直線的かあるいは膨らむ。頭盾の黒斑は普通、前縁に達しない。腹部第1背板基方に白斑を持たない（稀に持つ個体が見られる）。

「ジバチ」として有名で、巣を探し出し、幼虫や蛹を集めて食用とする。通常、土中に巣を造るが、屋根裏や壁間に巣を造る場合もある。巣は球形で、働きバチ数はx x xになる。

分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，種子島，屋久島；朝鮮，台湾，中国，シベリア，インド。

ツヤクロスズメバチ *Vespula rufa* (Linnaeus, 1758)

働きバチの体長12-14mm，女王で15-19mm。複眼内側の白斑は下半分のみに見られ、かつ細線となる。腹部第1背板基方に、中央で途切れる白帯がある。

巣は土中、樹洞等に見られ、枯れた草木や木材の繊維部分を集めて造られるため、縞状模様比較目立たず、全体的に灰色から暗灰色を呈する。本州では標高500-2,000mの山地に見られ、9、10月に新女王が羽化する。

分布：北海道，本州，四国，千島；カムチャッカ，シベリア，モンゴル。

シダクロスズメバチ *Vespula shidai* Ishikawa, Sk.Yamane & Wagner, 1980

働きバチの体長 10-14mm, 女王で 16-19mm. 複眼内側の白斑は上方にも延びるが, 幅は狭く, その内縁は三日月形にえぐられる. 頭盾の黒斑は通常, 前縁に達する. 腹部第 1 背板基方に白斑を持たない (稀に持つ個体が見られる).

巣は土中に造られるが, 屋根裏や樹洞に造られる場合もある. 巣は球形で, 働きバチ数は最盛期で 800-1,500 頭になる. ただし, 奄美大島の個体群は, 複数年巣を維持し, 巣の育房数が 79,000 を数えた記録もある (Yamane & Maeda, 2008). また, 多女王性の巣ともなっており, 本土の個体群とは生態が大きく異なる. 越冬巣中にオスが見られ, 5月に巣外でオスが採集されている. スズメバチ亜科で越冬性の巣は, 少なく, 日本では本種の奄美個体群のみに知られている.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島, 奄美大島, 加計呂麻島; 東シベリア.

キオビクロスズメバチ *Vespula vulgaris* (Linnaeus, 1758)

働きバチの体長 10-16mm, 女王で 18-20mm. 頭盾にはイカリ型の黒斑がある. 後胸背板に黄斑を持つ. 小盾板の黄斑は横に長い.

本州中部以北の山地に生息する. 本州中部では標高 800m から 2,000m あたりにまで生息する. 巣は土中や樹洞に造る.

分布: 北海道, 本州; アジア中北部, ヨーロッパ, 北米.

シナノヤドリクロスズメバチ *Vespula* sp.

オスの体長約 16mm. これまでのところ, 2 例のみの記録があり, 長野県南佐久郡白田町の標高 920m 地点で女王らしき個体とオスが発見され(1985 年 9 月), 2003 年 10 月に同郡南佐久村の標高 1520m 地点でオスが採集されている (高見沢, 2005).

本種はツヤクロスズメバチの巣中発見されており, 社会寄生を行うものと思われる. ツヤクロスズメバチ及びヤドリスズメバチのオスとは, 額の黄色紋及び触角柄節の黄白色部の形状の相違によって区別される.

本種には, *Vaspula shinanoensis* の学名が与えられたが, *shinanoensis* の原記載文は, 国際動物命名規約(第 4 版)による新種として発表する際の学名の適格要件を充たしておらず (条 16.4.2), 不適格名となる.

分布: 本州 (長野).

## Subfamily Polistinae アシナガバチ亜科

ムモンホソアシナガバチ *Parapolybia indica* (Saussure, 1854)

働きバチの体長 14-20mm. 細長いハチで、体の地色は黄色で、淡褐色の模様が多く見られる。頭盾は黄色で、斑紋はない。

葉の裏等に淡褐色から灰色の丸みを帯びた長方形の巣を作る。

東南アジアに広く分布し、日本産のものは原名亜種となる。

分布：本州，四国，九州，対馬，屋久島；朝，台，中，東南アジア，インド。

ヒメホソアシナガバチ *Parapolybia varia* (Fabricius, 1787)

働きバチの体長 12-16mm で前種よりも幾分小形。黄色の地色に、コントラストが大きい暗褐色の模様が見られる。頭盾に黒色の縦紋をもつ。

細い木の枝や葉裏に細長い巣を作る。巣当たりの働きバチ数は 20-100 頭程度。

分布：本州，四国，九州，対馬，屋久島，トカラ列島，奄美諸島；台湾，中国，東南アジア，インド。

フタモンアシナガバチ *Polistes chinensis* (Fabricius, 1793)

働きバチの体長 14-18mm. 腹部の細長い種である。腹部第 2 節に黄色円紋を 1 対もつ。北海道に生息し、本州東北部からも記録されているトガリフタモンアシナガバチとは、本種が前胸背板後縁の黄緑部はとぎれず、前縁の黄線につながることで、大アゴは全体黄色か少なくとも大きな黄斑をもつことで区別される。

屋久島以北の本土産の個体群に、亜種 *P. c. antennalis* Pérez, 1905 の名が与えられており、沖縄、朝鮮、中国の個体群は、基亜種 *P. chinensis chinensis* (Fabricius, 1793) とされている。基亜種では、より黄色部が発達し、さらに褐色の色彩部分が腹部や胸部に見られる。

人家周辺に多く、総育房数は 1000 を越す事がある。マユのふたは白色から灰白色（トガリフタモンアシナガバチでは黒色）。北海道では、渡島半島と奥尻島に分布が限られる。本州中部地方では、標高 1900m 地点まで見られる。

分布：北海道，本州，四国，九州，奥尻島，佐渡島，対馬，屋久島，琉球列島；朝鮮，中国。

セグロアシナガバチ *Polistes jokahamae* Radoszkowski, 1887

働きバチの体長 18-26mm. 最も普通に見られる大形のアシナガバチの一つ. 頭部と胸部に黄褐色や赤褐色の部分が多く見られるが, 前伸腹節は黒色となる. 腹部は黒色と黄褐色の模様をもつ. 触角上面は通常黄褐色. 後頭隆起線は大アゴ基部に達しないことで, 類似のキアシナガバチと区別できる.

本州から屋久島まで基亜種 *P. j. jokahamae* Radoszkowski, 1887 が生息し, 奄美諸島に別亜種 *P. jokahamae* spp. とされる個体群が, 沖縄諸島, 八重山諸島には亜種 *P. j. okinawensis* Matsumura & Uchida, 1926 が生息する. 沖縄の個体群は前伸腹節に2縦紋をもつ個体が多く, 中胸背板には太い赤褐色の縦紋がある. また腹部に赤褐色帯が見られる. 奄美諸島の個体群では, 腹部の赤褐色帯がより発達する. 沖縄島のキアシナガバチは体色が黒色味が強く, 一見セグロアシナガバチに類似する. 本島ではキアシナガバチが圧倒的に多く, 本種は少なく同定に注意を要する. 人為的移入種として, 小笠原諸島の父島から記録されたことがある. 本種には, 長く *P. jadvigae* の学名が適用されていた.

人家の軒先や, 藪内の枝等に営巣し, チョウやガの幼虫を狩って餌としている. 総育房数は 400 以上になる.

分布: 本州, 九州, 四国, 対馬, 屋久島, 琉球列島; 朝鮮, 台湾, 中国.

#### ヤマトアシナガバチ *Polistes japonicus* Saussure, 1858

働きバチの体長 15-20mm. 前伸腹節に通常 1 対の幅広い縦の黄斑がある. 腹部第 1 背板は黒色部が多く, 後縁付近の帯状紋は鮮黄色. 第 2 背板の基部は広く黒色. 第 2 節以降の各節後縁に帯状紋がある.

本州から屋久島まで分布する (ただし台湾にも生息する). これまで, 奄美諸島以南の琉球列島にも分布するとされていたが, これらはタイワンアシナガバチであることが判明した(Saito et al., 2007).

草木の枝や家屋の軒下, 石垣等に小さい巣を作り, 働きバチ数は通常 20 頭以下, 総育房数は 50-200 程度である. 繭のふたは淡黄色.

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島; 朝鮮, 台湾, 中国, ベトナム.

#### タイワンアシナガバチ *Polistes formosanus* Sonan, 1927

働きバチの体長 13-15mm. 前伸腹節に通常 1 対の黄斑がある. 第 2 背板の基部の黒色部は狭い.

宮古, 八重山, 台湾の個体群は, 体に黄斑が豊富で, 前伸腹節はほぼ全体が黄色. さらに, 腹部背板も各節の基部が狭く黒色 (普通隠れて見えない) である以外は黄色. し

かし、沖縄島の個体群は、体に黒色部分が多く、かつ赤褐色部も多い。奄美大島のものは、やや黄斑の多い色彩を呈する。

本種を、ヤマトアシナガバチの亜種とする見解も見られたが、近年の分子系統解析の結果(Saito et. al., 2007)から、本種は独立種であり、ヤマトアシナガバチは屋久島以北に分布し、本種は、地域ごとの色彩の変異が大きいが、奄美諸島以南に生息することが判明した。

草の茎や木の枝等に営巣する。巣は小さく、総育房数は 40-80。繭のふたは淡黄色ないし黄色。与論島の個体群では、創設初期からオスを生産することが判明した(Miyano et al., 2010)。琉球列島に普通に見られ、与論島や八重山諸島では最普通種。

分布：奄美諸島，沖縄諸島，宮古諸島，八重山諸島，南大東島；台湾。

#### キボシアシナガバチ *Polistes nipponensis* Pérez, 1905

働きバチの体長 13-16mm。触角は最初の 2-3 節上面が赤褐色で、鞭節の大部分は黒色から黒褐色。中胸背板は常に全体黒色。腹部第 2 節以降の各節に赤褐色の帯状紋をもつ。また、第 1 背板後縁に黄帯を持つことがあるが、コアシナガバチと異なり、他の背板に黄色部はない。

巣は木の枝や葉裏に良く見られる。総育房数は少なく 20-100 程度、働きバチ数も 20 頭以下である。マユのふたは鮮やかな黄色をしている。ガの幼虫を主に狩る。

分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，屋久島；朝鮮，中国。

#### トガリフタモンアシナガバチ *Polistes riparius* Yamane & Yamane, 1987

働きバチの体長 12-19mm。腹部第 2 節に 1 対の明瞭な黄色円紋を持つ。フタモンアシナガバチに類似するが、前胸背板後縁の黄緑部は普通前方でとぎれることと、大アゴは全体が黒色（まれに小さな黄斑をもつ）であることで区別される。フタモンアシナガバチよりもやや大形。

樹木の細い枝に長円形の巣作る。構成員は少なく、通常 20 頭以下で、巣の育房数は 70-130 程度。繭のふたは黒色（フタモンアシナガバチでは白色から灰白色）。

分布：北海道，本州（東北地方）。

#### キアシナガバチ *Polistes rothneyi* Cameron, 1900

働きバチの体長 18-24mm。セグロアシナガバチと並んで大形の普通に見られるアシナガバチであるが、やや山地を好む。黒色と鮮黄色の模様をもつ（沖縄諸島の個体群は暗色となる）。触角の柄節，梗節，鞭節の数節上面は黒色（八重山諸島の亜種では柄節上

面が黄褐色)。また、本土個体群では前伸腹節に通常1対の黄色縦紋を持つ。後頭隆起線は完全に大アゴ基部に達し、類似のセグロアシナガバチと区別できる。

北海道から奄美諸島までの個体群は亜種 *P. r. iwatai* van der Vecht, 1968 とされている。沖縄諸島のものは体が暗色がかかる。前伸腹節に2縦紋を欠き黒色となり、同所に生息するセグロアシナガバチと色彩が類似し、亜種 *P. r. ingrami* van der Vecht, 1968 とされる。沖縄島では、キアシナガバチの方が多く見られる。一方、宮古・八重山諸島の個体群は、黄色部が発達し、亜種 *P. r. yayeyamae* Matsumura, 1911 とされる。宮古・八重山の個体は、今度はタイワンアシナガバチと色彩が類似し、ここでも同定に注意が必要である。

藪の枝、石垣、家屋の軒下等に巣を造る。総育房数は50-800房となる。

分布：北、本、四、九、奥尻島、佐渡島、対馬、琉球列島；朝鮮、台湾、中国、東南アジアー西南アジア。

コアシナガバチ *Polistes snelleni* Saussure, 1862

働きバチの体長9-11mmのやや小形の種。中胸背板は常に全体黒色。触角上面はほぼ全体黒色で、鞭節の大部分は黒色から黒褐色。腹部第1, 3, 4背板の後縁に鮮黄色の横帯または2紋を持つ。

木の枝、人家の軒下、板壁等に営巣し、細長い舟形の巣を作る。働きバチ数は20-50個体程度。繭のふたは白色から灰白色。平地から低山地にかけて生息するが、低山地により多く見られる。本州中部で標高1900mまで見られる。

分布：北海道、本州、四国、九州、対馬；朝鮮、中国。

オキナワチビアシナガバチ *Ropalidia fasciata* (Fabricius, 1804)

働きバチの体長9-11mm。褐色の小形のハチ。腹節第2背板に1対の黄紋を持つ。

日本では琉球列島の喜界島以南に生息し、ススキ、サトウキビ等の葉裏に巣を造る。1頭の女王が巣を創設する場合と、2頭から十数頭の女王が共同で創設する場合がある。巣は小さく、巣当たりの働きバチ数は20-100頭程度。

分布：琉球列島；台湾、中国、東南アジア、インド。

ナンヨウチビアシナガバチ *Ropalidia marginata* (Lepelletier, 1836)

働きバチの体長14-15mmで、前種よりも一回り大きい。腹節第2背板の後縁部に顕著な黄色帯が見られるが、黄紋はない。

日本では硫黄島のみに見られ、亜種 *R. m. sundaica* van der Vecht, 1941 とされる。



本亜種は、マリアナ諸島からインドネシア、マレー半島にかけて広く分布し、硫黄島の個体群は、他地域からの人為的移入と推定される。硫黄島では、ギンネムや家屋に巣が普通に見られる。本種の巣は大きくなり、育房数が1,000を越えるものもある。

分布：火山列島（硫黄島）；マリアナ諸島，東南アジア。

## 目 録

### Family Vespidae スズメバチ科

#### Subfamily Vespinae スズメバチ亜科 [亜種を認めない見解(Carpenter & Kojima, 1997)を採用した]

*Dolichovespula adulterina* (Buysson, 1905) ヤドリホオナガスズメバチ 北，本；ユー  
ラシア

*Dolichovespula adulterina montivaga* Sk. Yamane, 1982

*Dolichovespula media* (Retzius, 1783) キオビホオナガスズメバチ 北，本；ユーラシア

*Dolichovespula media sugare* Ishikawa, 1969

*Dolichovespula pacifica* (Birula, 1930) シロオビホオナガスズメバチ 北，本，四，千；  
ユーラシア，ミャンマー，チベット，北米

*Dolichovespula norvegicoides pacifica* (Birula, 1930)

*Dolichovespula saxonica* (Fabricius, 1793) ニッポンホオナガスズメバチ 北，本；ユー  
ラシア

*Dolichovespula saxonica nipponica* Sk. Yamane, 1975

*Vespa affinis* (Linnaeus, 1764) ツマグロスズメバチ 沖，八；台，中，ミャンマー，  
インド，スリランカ

*Vespa analis* Fabricius, 1775 コガタスズメバチ 北，本，四，九，対，屋，琉；朝，台，中，  
東南アジア，インド，シベリア

*Vespa analis eisa* Sk. Yamane, 1987

*Vespa analis insularis* Dalla Torre, 1894

*Vespa analis nagatomii* Sk. Yamane, 1987

*Vespa crabro* Linnaeus, 1758 モンスズメバチ 北，本，四，九；ユーラシア，北米（人為  
的移入）

*Vespa crabro flavofasciata* Cameron, 1903

- Vespa dybowskii* Andre, 1884 チャイロスズメバチ 北, 本; 朝, 台, 中, シベリア, ウス  
リー, タイ, ミャンマー
- Vespa mandarinia* Smith, 1852 オオスズメバチ 北, 本, 四, 九, 対, 屋; 朝, 台, 中,  
東南アジア, インド, ヒマラヤ
- Vespa mandarinia japonica* Radoszkowski, 1857
- Vespa simillima* Smith, 1868 キイロスズメバチ 北, 本, 四, 九, 千, 対, 屋; 朝, シベ  
リア, サハリン
- Vespa simillima xanthoptera* Cameron, 1903
- Vespa ducalis* Smith, 1852 ヒメスズメバチ 本, 四, 九, 対, 琉; 朝, 台, 中
- Vespa tropica esakii* Sonan, 1935
- Vespa tropica loochooensis* Bequaert, 1936
- Vespa tropica pulchra* Buysson, 1903
- Vespula austriaca* (Panzer, 1799) ヤドリスズメバチ 北, 本; ユーラシア
- Vespula flaviceps* Smith, 1858 クロスズメバチ 北, 本, 四, 九, 対, 種, 屋; 朝, 台,  
中, インド, シベリア
- Vespula flaviceps lewisii* (Cameron, 1903)
- Vespula rufa* (Linnaeus, 1758) ツヤクロスズメバチ 北, 本, 四, 千; カムチャッカ, シ  
ベリア, モンゴル
- Vespula schrenckii* (Radoszkowski, 1861)
- Vespula shidai* Ishikawa, Sk. Yamane & Wagner, 1980 シダクロスズメバチ 北, 本, 四,  
九, 屋, 奄 (奄美大島, 加計呂麻島); 東シベリア
- Vespula shidai amamiana* Sk. Yamane, 1987
- Vaspula* sp. シナノヤドリクロスズメバチ 本 (長野)
- Vaspula shinanoensis*: Tamamizawa, 2005. nom. nud. [本種の前記載は国際動物命名規約の条件(Art. 13, 16.4[2])  
を満たしていない]
- Vespula vulgaris* (Linnaeus, 1758) キオビクロスズメバチ 北, 本; アジア中北部, ヨー  
ロッパ, 北米

### Subfamily Polistinae アシナガバチ亜科

- Parapolybia indica* (Saussure, 1854) ムモンホソアシナガバチ 本, 四, 九, 対, 琉; 朝,  
台, 中, 東南アジア

- Parapolybia indica indica* (Saussure, 1854) ムモンホソアシナガバチ  
本土琉球亜種・ムモンホソアシナガバチ 本, 四, 九, 対. 琉; 朝, 台,  
中, 東南アジア
- Parapolybia varia* (Fabricius, 1787) ヒメホソアシナガバチ 本, 四, 九, 対; 東南アジ  
ア, インド
- Polistes chinensis* (Fabricius, 1793) フタモンアシナガバチ 北, 本, 四, 九, 奥, 佐, 対,  
屋; 朝, 中
- Polistes chinensis chinensis* (Fabricius, 1793) フタモンアシナガバ  
チ沖縄亜種・キイロフタモンアシナガバチ 沖; 朝, 中
- Polistes chinensis antennalis* Pérez, 1905 フタモンアシナガバチ本  
土亜種・フタモンアシナガバチ 北, 本, 四, 九, 奥, 佐, 対, 屋
- Polistes jokahamae* Radoszkowski, 1887 セグロアシナガバチ 本, 四, 九, 対, 屋, 琉
- Polistes jokahamae jokahamae* Radoszkowski, 1887 セグロアシナガバ  
チ本土亜種・セグロアシナガバチ 本, 四, 九, 対, 屋
- Polistes jadvigae jadvigae* Dalla Torre, 1904
- Polistes jokahamae okinawensis* Matsumura & Uchida, 1926 セグロアシ  
ナガバチ沖縄亜種 沖, 八
- Polistes jokahamae* spp. セグロアシナガバチ奄美亜種・アマミセグロア  
シナガバチ 奄
- Polistes japonicus* Saussure, 1858 ヤマトアシナガバチ 本, 四, 九, 対, 屋; 朝, 台, 中,  
ベトナム
- Polistes formosanus* Sonan, 1927 タイワンアシナガバチ 奄, 沖, 宮, 八, 南大東島; 台
- Polistes japonicus formosanus* Sonan, 1927
- Polistes nipponensis* Pérez, 1905 キボシアシナガバチ 北, 本, 四, 九, 対, 屋; 朝, 中
- Polistes mandarinus* Saussure, 1853
- Polistes riparius* Yamane & Yamane, 1987 トガリフタモンアシナガバチ 北, 本 (東北地方)
- Polistes rothneyi* Cameron, 1900 キアシナガバチ 北, 本, 四, 九, 奥, 佐, 対, 琉; 朝,  
台, 中, 東南アジア~西南アジア
- Polistes rothneyi iwatai* van der Vecht, 1968 キアシナガバチ本土亜  
種・キアシナガバチ 北, 本, 四, 九, 奥, 佐, 対, 奄
- Polistes rothneyi ingrami* van der Vecht, 1968 キアシナガバチ沖縄  
亜種・オキナワアシナガバチ 沖
- Polistes rothneyi yayeyamae* Matsumura, 1911 キアシナガバチ八重山

亜種・ヤエヤマアシナガバチ 八

- Polistes snelleni* Saussure, 1862 コアシナガバチ 北, 本, 四, 九, 対; 朝, 中
- Ropalidia fasciata* (Fabricius, 1804) オキナワチビアシナガバチ 琉; 台, 中, 東南アジア, インド
- Ropalidia marginata* (Lepeletier, 1836) ナンヨウチビアシナガバチ 火 (硫黄島); マリアナ諸島, 東南アジア
- Ropalidia marginata sundaica* van der Vecht, 1941 ナンヨウチビアシナガバチ硫黄島亜種 火 (硫黄島); マリアナ諸島, インドネシア, マレー半島

参考文献

- Carpenter, J. M., 1982. The phylogenetic relationships and natural classification of the Vespoidea (Hymenoptera). Syst. Ent., 7: 11-38.
- Carpenter, J. M., & J. Kojima, 1997. Checklist of the species in the subfamily Vespinae (Insecta: Hymenoptera: Vespidae). Nat. Hist. Bull. Ibaraki Univ., 1: 51-92.
- 石川良輔, 1965. スズメバチ科. 朝比奈正二郎他編, 原色昆虫大図鑑 III. 北隆館, 291-294.
- 岩田久仁雄, 1971. 本能の進化. 一蜂の比較習性学的研究. 真野書店. 503pp.
- 加納六郎・篠永 哲, 2003. 新版日本の有害節足動物. 東海大学出版会, 397pp.
- 木野田君公, 2006. 札幌の昆虫. 北海道大学出版会, 413pp.
- Kojima, J., 1997. Taxonomic notes on the social wasps in the Kanto Plain, central Japan (Insecta: Hymenoptera: Vespidae). Nat. Hist. Bull. Ibaraki Univ., 1: 17-44.
- 小島純一, 1997. 研究報告. IUSSI NEWS (国際社会昆虫学会日本地区会), (30): 1-2.
- Kojima, J. & J. M. Carpenter, 1997. Catalog of species in the polistine tribe Ropalidiini (Hymenoptera: Vespidae). Am. Mus. Nov., 3199: 1-96.
- Kojima, J. & Y. Hagiwara, 1998. Lectotype designation of four species and one form of the paper wasp genus *Polistes* Latreille, 1802, described from Japan, with notes on the scientific names of Japanese *Polistes* (Insecta: Hymenoptera: Vespidae, Polistinae). Nat. Hist. Bull. Ibaraki Univ., 2: 247-262.
- Matsuura, M., 1984. Comparative biology of the five Japanese species of the genus *Vespa* (Hymenoptera, Vespidae). Bull. Fac. Agri., Mie Univ., 69: 1-131.
- 松浦 誠, 1975. 成虫の形態及び造巢習性によるアシナガバチの見分け方. 植物防疫,

29: 292-298.

- 松浦 誠, 1995. 図説社会性カリバチの生態と進化. 北海道大学図書刊行会, 291pp.
- 松浦 誠・山根正気, 1984. スズメバチ類の比較行動学. 北海道大学図書刊行会, 428pp.
- Miyano, S., S. Makino & Sk. Yamane, 2010. *Polistes formosanus* (Hymenoptera: Vespidae) produces males concurrently with females in the first brood on Yoron Island, southern Japan. *Sociobiology*, 56(1): 91-106.
- Saito, F., J. Kojima, L. T.P. Nguyen & M. Kanuka, 2007. *Polistes formosanus* Sonan, 1927 (Hymenoptera: Vespidae), a good species supported by morphological and molecular phylogenetic analysis, and a key social wasp in understanding the historical biogeography of the Nansei islands. *Zool. Sci.*, 24: 927-939.
- 高見沢今朝雄, 2005. 日本の真社会性ハチ. 全種・全亜種生態図鑑. 信濃毎日新聞社, 262pp.
- 寺山 守, 2004. 硫黄島で得られた有剣ハチ類. つねきばち, 2: 1-5.
- Yamane Sk., 1975. Taxonomic notes on the subgenus *Boreovespula* Bluthgen (Hymenoptera: Vespidae) of Japan, with notes on specimens from Sakhalin. *Kontyu*, 43: 343-355.
- Yamane, Sk., 1987. The Vespinae of the Ryukyu Islands, Japan (Hymenoptera, Vespidae). *Kontyu*, 55: 628-638.
- Yamane, Sk., 1991. Occurrence of *Ropalidia marginata* on the Volcano Islands, Japan (Hymenoptera, Vespidae). *Proc. Japan. Soc. Syst. Ent. Zool.*, 45: 55-59.
- 山根正気, 2004. 日本産スズメバチ科 Vespidae の亜科の検索表. あっ!ハチがいる! 世界のハチとハチの巣とハチの生活, 別冊検索表, 5-9.
- 山根正気, 1990a. 世界のアシナガバチ. 採集と飼育, 52: 236-240.
- 山根正気, 1990b. 日本のアシナガバチ. 採集と飼育, 52: 241-244.
- 山根正気, 1993. 日本の社会性ハチ相. 昆虫と自然, 28(1): 31-35.
- Yamane, Sk. & Y. Maeda, 2008. *Vespula shidai amamiana* (Hymenoptera, Vespidae): perennial colonies and polygyny in subtropical Japan. *Biogeography*, 10: 73-77.
- Yamane Sk. & S. Makino, 1977. Bionomics of *Vespa analis insularis* and *V. mandarina latilineata* in Hokkaido, northern Japan, with notes on vespine embryo nests (Hymenoptera: Vespidae). *Ins. Matsumuruna (N. S.)*, 12: 1-33.
- Yamane Sk., R. F. Wagner & S. Yamane, 1980. A tentative revision of the subgenus *Paravespula* of Eastern Asia (Hymenoptera: Vespidae). *Ins. Matsumuruna (N.S.)*, 19: 1-46.
- 山根正気, 1999. スズメバチ科. 山根正気・幾留秀一・寺山 守著, 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説. 北海道大学図書刊行会, 445-463.

山根爽一，1986. フタモンアシナガバチ. 文一総合出版. 172pp.

山根爽一，2001. アシナガバチ 一億年のドラマ. 北海道大学図書刊行会, 291pp.